IOT活用徹底の有老

全室センサー・スマートスピーカー導入

茨城県で高齢者施設、クリニック、薬局などを展開する今川医療福祉グループの医療法人社団みなみつくば会（茨城県つくば市）は3月、介護付有料老人ホーム「サンシャインつくばリゾート」（居室数50／平均要介護度3・0）を開設した。同施設は、スマートスピーカー、タブレット端末、エコナビスタ（東京都千代田区）の見守りシステムを全室に導入。ICTを活用した先進的な取り組みに力を入れている。運営部の古澤健部長に話を聞いた。

運営部
古澤健部長

みなみつくば会

――ICT導入のポイントは。

古澤 職員に向けた運用教育が重要だ。運用教育を充実させることにより、一層業務の効率化が図られ人員削減の可能性が見込める。ICTを効率よく運用するには、職員も多くの習得時間を要するが、使いこなすことで更なる業務の効率化が期待できる。業務の何が不要で、何を変えたいのか、何を減らしたいのか課題を明確化し、検討することがICT導入のポイントになる。

◀サンシャインつくばリゾート外観

――見守りシステムの導入について。

古澤 膨大な記録物や不確かな巡視など、本来、職員がやらなくていい業務は見守りシステム「ライフリズムナビ＋Dr.」が補い、補われた時間を職員が有効活用できるようになった。入居者と直接的な関わりを多く持つことができ、職員の「働きやすさ」「仕事のやりがい」につなげる狙いがある。今まではスタッフの経験則でケアを行うケースが多くあったが、グラフや数値により可視化されることで根拠に基づいたサービスが提供できる。グラフは、通常は月締めでグラフデータを集計、体調不良が続いている場合や状態変化が著しい入居者は毎日グラフを確認し、数値や兆候に応じて医師へ相談するなどの早急な対応がとれる。

――転倒などの事故防止に活用できる。

事故防止にも活用

古澤 従来は転倒・転落などのアクシデントが発生した際、発見した状況から想像で検証していたため、対策が不十分で再発の可能性があった。入居者の活動状況をグラフで確認し、具体的な対策が行えるようになった。また、スタッフ全員が家族に科学的根拠のある説明が行えるようになり、顧客満足度の向上にもつながっている。睡眠時間や居室内活動状況などの見えない部分を「見える化」することは、カンファレンス、医師への説明などに役立っている。

夜間の負担軽減

――入居者と関わる時間が増えた。

古澤 ライフリズムナビを活用することで夜勤業務の負担を軽減できたため、日中行っていた業務を夜勤のスタッフが対応することで、日中の入居者と関わる時間を増やすことができた。入居者に寄り添ったケアを提供したいと介護現場に就くが、多忙のため業務が流れ作業になり、理想と現実の現場とギャップを感じることがある。若い人たちに介護に興味を持ってもらうため、ICTを活用した効率の良い業務運用やICTを活用することで生まれる入居者と関わる時間など、職員の思い描く理想的で働きやすい環境に近づけたい。

――多職種にセンサーを活用して欲しいと考えている。

古澤 看護職員はじめ多職種にもライフリズムナビを活用してもらい、入居者の生活モデルを把握したうえで、ケアを提供して欲しい。知識・経験のみでケアを提供するのではなく、数値化した根拠に基づいたケアプランによりサービスの提供を行いたい。当施設では、看護職員が24時間365日常駐しているため、特に看護職員の気づきには期待している。システムを駆使し、かすかな兆候を見逃さず、早期発見の前段階である「予防」のうちから対処できるようにしたい。また、ライフリズムナビを活用することで、新たなやりがいを感じてもらい離職防止の一助になればとも考えている。

――今後については。

古澤 従来の介護のイメージとは異なる施設にしたい。当施設は全居室にタブレット端末、アレクサを導入している。独自開発した予約アプリで入居者のニーズに沿った、きめ細やかなサービス提供にも努めている。新しいスタイルの施設として、次世代型の科学的介護の実現に挑戦していきたい。